

# 甘えていてはいけません

下の画像は、現在三年生が独自に行っている教室の環境を向上させる取り組みの足跡です。三年の教室前の移動式掲示板に貼られています。生徒たち自身が評価した文面と、それに対する主任のY教諭のコメントが興味深く、私は毎日目を通していきます。

私の興味をそそるのは、三年としてプライドを教室環境で見せようと頑張っている彼らの姿だけではありません。この掲示物に記入されている筆跡の丁寧さも、私の興味をそそっています。

どんな内容が書かれているかを確かめる前に、私の目に飛び込んでくるのは筆跡です。それがいい加減なものであれば、内容がいくら素晴らしくても読みたいとは思いません。逆に、筆跡が丁寧であれば、内容にも期待して読みたくなるというものです。

ここで間違えないでほしいのは、「美しい筆跡ではない」ということです。筆跡が美しいかどうかではなく、筆跡が丁寧かどうか、それが肝心です。丁寧に書かれた文字には誠実さが漂います。一画一画確実に書かれた文字にこそ、取り組む人たちの一生懸命さ、ひたむきさが表れます。

だれもが通る進路選択。多くの生徒が進学を志す現代ですが、進学であっても就職であっても共通していることがあります。それは、受け入れてもらいたい相手（高校や就職先）のもとに真っ先に届くのは、自分の筆跡で書かれた書類だということです。実際に会って実力や人となりをわかってもらう前に、書類で判断されるのが卒業後の社会だと言えるでしょう。

義務教育の段階では、皆さんの書いたものを読む人たち（仲間、教師、保護者）は、どんな筆跡であっても受け入れようとして読んでいます。つまり、今自分の周りには、わかろうとしてくれている人ばかりがいるということです。

それに甘えてはいけません。中学卒業後は、自分のことをわかろうとする人が一気に減ります。むしろ、厳しい目や評価が向けられます。その時になって丁寧に記入することの重要性に気付くのではなく、今から気づき、努力を積み重ねておきましょう。ホワイトボードに記入されている文字、点検表に書かれた○や×、提出するノートやプリントの筆跡など、甘えていないか、振り返ってみましょうね。（四月二十四日 記）

